

平成30年度 特定非営利活動法人もちもちの木 活動報告

広島銀行コンサルティングサービスによる職員インタビュー分析のデータにもう一度立ち返り、事業所ごとに29年度のアクションプランの達成度を再確認して課題を明確にし、修正と追加を会議で検討のうえ実施した。組織運営が円滑に進むために理念を共有していくことは大前提として、コミュニケーション活発化、営業力強化、スキルアップの好回転への意識改革を以下の内容で実施した。

職員インタビューの分析より

「地域と共にある法人」

★地域コミュニティ支援事業と介護事業がリンクする動きが見え始めた。

- ・地域活動が将来自分の人生にプラスになることを感じ、定期的に地域活動に参加する職員が増えた。

地域活動に定期的に参加する職員 11名 / 全職員 49名

- ・全体の相談・紹介・介護事業所の利用やデイからグループへの入居を数値化した。
- | | | |
|-----------|----------|------------------------|
| グループホーム土橋 | 待機登録 17件 | 新規入所者 4名 (うちD土橋利用者 2名) |
| デイサービス土橋 | 相談 16件 | 体験 14名 新規 9名 利用中止 6名 |
| グループホーム古田 | 待機登録 9件 | 新規入所者 3名 (うちD古田利用者 1名) |
| デイサービス古田 | 相談 5件 | 新規 3名 利用中止 6名 |

「役割分担」

★チームワークを意識して、部門の役割・個人の役割を明確にするために

- ・主体性を発揮することをテーマに社会人基礎力の研修を実施した。
- ・業務分担の相談や、判断を仰ぎたいケースについてサイボウズを通し共有できた。
- ・各事業所のミーティング等で事業運営がより円滑に進むための議論を行い、必要に応じて結果を管理者会議でも議論・共有した。

「働き方改革」

★決められた時間内で業務を行い自己啓発でスキルアップ! できるよう、各自がテキパキと業務をこなし残業を抑制するほか、業務分担を見直した。

- ・自主的なスキルアップ・資格取得支援のため、サイボウズ等で研修の情報提供を行った。
- ・介護キャリア段位制度の評価項目を活用して個人の介護能力のアセスメントを実施。個々

のできること・得意なことを共有し、できないことを習得・不得意なことを得意にする方法を指導した。

・管理者に対しては、根拠にもとづいた職員の能力評価を行い、課題を明確にしたうえで個別研修計画を立てる手法を提案した。

・キャリアパス制度と研修制度拡充ためのアセッサーモデル事業は完了できなかった。

※「働き方改革」の他の項目は総務で報告

「利益確保」

★利益確保することが事業継承には不可欠！営業力強化と経費削減で利益アップを！

経営と運営

・経営会議の開催（毎月第3火曜日17時半～18時半）

理事会役員、管理者、リーダー、総務担当者、広銀コンサルティング担当者、その他の有識者で開催した。

時代に合った経営に関する必要な知識や考え方を知り理解した。

前月のデータを共有・分析し、それに伴うアクションプランの作成と修正をルーチン化した。

・管理者会議の開催（毎月第1木曜日18時～19時）

管理者・リーダー・総務担当者、その他の有識者で開催した。

事業所運営に関する必要な知識や考え方を理解し職員の研修の実施状況、アクションプランの進捗状況を報告し共有した。

・各職員が利用者確保にむけて意識して営業を行う（広報紙配布、電話対応、来訪者対応、地域住民・親戚への口コミ等）は積極的に促すことができなかった。

・『より長く、より回数多く利用したいデイサービス』『より早く入居したいグループホーム』と思われるような取り組みの開発としてデータを把握した。

1. 会議

(1) 第17期通常総会・活動報告交流会

平成30年5月26日（土）18:00～21:00 広島市まちづくり市民交流プラザにて

参加職員数を上回る地域活動者が参加され、行政関係者もプライベートで参加されるなど盛況だった。

(2) 理事会

経営会議と同日開催とした。

(3) 経営会議

理事長、副理事長、各事業所管理者、総務、広島銀行コンサルティングサービスの担当
者で毎月第3火曜日に会議を開催し、各事業所の月次収益・稼働率について協議・情報共有
を行った(計12回開催)。

(4) 管理者会議

各事業所管理者、総務が毎月第1木曜日に会議を開催し、事業所の状況報告、人事、安全衛
生等について検討を行った(計11回開催)。

(5) 法人全体会議

【第1回】平成30年10月1日(月)18:30~20:00 庚午のうちにて

- ・広島銀行より法人経営状況について
- ・各事業所の上半期の総括
- ・就業規則改正(70歳定年制、ハラスメント禁止条項)

【第2回】平成31年3月27日(月)18:30~20:00 庚午のうちにて

- ・広島銀行より法人経営状況について
- ・平成30年度の法人目標、各事業所目標に対する総括と課題

2. 介護事業

(1) 土橋のおうち

◎グループホーム土橋のおうち(定員9名)

【平成30年度 活動方針】

① 情報共有の徹底

申し送り時に異常や受診結果、変更などを他の職員に伝える。又は経過記録に記録し、
職員全体が利用者様全員の状態を把握する

② 家族会、お茶会の実施

家族会やお茶会を開催し、家族との交流を深める

③ 職員のスキルアップ、レベルアップ

内外の研修を通してレベルアップやスキルアップし、業務に生かす

【事業所目標】

- ①カンファレンスに参加する事によって、情報の共有をして職員全体統一したケアにつなげる
確実に伝えたい事は業務日誌に記録し、詳細は経過記録に記入し、職員間の情報の漏れがないようにする
記録する事で各々が、観察する力と、伝える力の両方を身につけていく
- ②御家族様に失礼のない接遇を身につけ、信頼関係を築く
御家族様に無理のないレクを計画する
- ③利用者様のケアに生かす為の職員のレベルアップにつながる研修に参加できる職場、環境づくりをする
学んだ研修報告をスタッフ全体に伝え、スタッフ全体がスキルアップにつながるようにする

【活動報告】

- ①口頭と記録で重複しながらも、情報の徹底は出来てきている。又、スタッフ各々が、「知ろう」という意識に変化してきている。今後は要点を簡潔に伝えられる力を身につけていく。
カンファレンスを日勤後（18：30～）開催していたが、時間的に参加の難しいスタッフもいたため、業務内の時間に変更し、参加率をアップする。
- ②もちもち祭で御家族との食事会を実施。2家族のみの参加だったが、日本舞踊を披露して頂いたり、GHの日常を写した写真を見て頂いた。
10月と2月に「花活」を開催する。御家族様のみならず、地域の方とも触れ合う事が出来た。現在も園芸福祉士の資格を持ったスタッフが中心となりグループホームに絶えず花を咲かせている。花を通して季節を感じて頂いている。
しかし、まだまだ御家族様の参加が少ないので、もっと沢山の御家族様が参加できるよう計画を見直す必要がある。
- ③研修の情報はスタッフ全員がわかるように提示し、学びたい内容の研修を各々が選び参加できた。研修に参加できる職場づくりは達成できている。研修内容の伝達勉強会も確実に実施できた。しかし、まだ日常のケアに生かしきれていないと思われるので、今後、振り返りの学習を継続し、各自が理解し、ケアに生かせるようにしていく。

入居状況（H31.3.31 現在）

入居者 9名（女性8名、男性1名 平均年齢 85.0歳） 平均介護度2.4

介護度	人数
要介護1	2
要介護2	4
要介護3	1
要介護4	1
要介護5	1

月	入居者(人)	空室	入院
4月	8	1	0
5月	8	1	1
6月	8	0	0
7月	8	0	1
8月	8	0	0
9月	8	0	0
10月	9	0	1
11月	8	1	1
12月	8	1	0
1月	9	0	0
2月	9	0	0
3月	8	0	1

居室の空き期間

4/10～5/14 6/20～7/11 8/9～9/24 11/30～1/2（計133日）

入院期間（延べ日数）

5/25～5/31 7/13～7/19 10/18～11/4（計29日間）

カンファレンス 毎月定期開催（計12回）

運営推進会議

奇数月の2か月に1回（5/26 7/27 9/28 11/27 1/22 3/29）※5月は総会を兼ねて

研修 ※キャリアパス研修、法人研修は研修報告参照

事業所内研修（身体拘束研修）5/2 7/27 11/1 1/20 2/18

事業所外研修

実施日	研修内容
5月24日	介護職に必要な医療知識
7月13日	高齢者の栄養管理と簡単介護食づくり
8月21日	介護中に緊急事態が発生した時の対処方法
8月23日	高齢者における精神疾患の理解
9月12日	介護職の為の看取り期の観察ポイント
9月19日	認知症の人の理解と事例で考える行動・心理症状への対応
10月3日	介護の目標と基本的な考え方～現場で輝き続けるために～

12月12日	ユマニチュード 入門コース
12月26日	自立支援の介護技術
1月30日	リフレ排泄研修
2月7日	認知症のケア～理論と実践～
2月20日	アセスメント・個別援助計画書の作成について
2月25日	介護記録の知識と取り方
3月7日	ICFの目的と考え方

行 事

4月	花見
	歌声喫茶（2回）
5月	フラワーフェスティバル見学
	歌声喫茶（1回）
6月	歌声喫茶（1回）
7月	ハーブ石鹸づくり
	歌声喫茶（1回）
8月	盆踊り（本川小学校）
	歌声喫茶（2回）
9月	外食
	歌声喫茶（1回）
	消防訓練
10月	花活
11月	もちもち祭・浜恵比須神社祭り・亥の子まつり
12月	クリスマス会
1月	初詣
2月	外部評価
	花活 2回目
3月	歌声喫茶（2回）
	花見

※この他にも、日常的に散歩、買い物、誕生日会や季節の行事等行っている。

◎認知症対応型通所介護（共用型）（定員3名）

平成30年4月25日付で休止届を提出した。

◎デイサービス土橋のおうち（定員13名）

登録者 計24名（平成31年3月31日現在）

機能訓練実施利用者 平均5名/日 稼働率 平均49.9%

要支援1 1名 要支援2 1名 要介護1 2名 要介護2 2名

要介護3 4名 要介護4 6名 要介護5 5名 日中一時 3名

【平成30年度 事業所目標】

多職種（他事業所）と連携し根拠に基づいた介護を実践する

1. 介護実践能力の向上

根拠に基づいた介護の提供

- ・実践したことを記録に残す
おおむね記録は出来ているが利用者の表情や数値化した記録の記入が課題。
- ・実践したことを振り返り適宜修正する
利用者の状況が変化する度にミーティング、カンファレンスで振り返りケアプランを修正できた。
- ・アセッサー制度を利用し技術の向上を図る
職員3名がアセッサーになったが業務には活用できていない。
- ・介護報酬改定に沿った記録物の見直し修正
機能訓練計画のアセスメントとモニタリングのため自宅訪問し記録を行った。
- ・スタッフミーティング月2回開催（第2・4水曜日）
第2水曜日は業務の見直しと環境整備等、第4水曜日は利用者のケアに関する事、とテーマを分けることでミーティングの効率化を図ることができた。

利用者に関わる連携の強化

- ・他サービス業者間による連携ノート活用・推進
登録者24名のうち8名について、家族の介護負担緩和のために可能な限りデイで排便を促した。また2名については排泄関係の情報共有シートをケアマネに提案、実施した。
- ・担当者会議への積極的参加
ケアマネから依頼の担当者会議に出席するだけでなく、今後の予後の悪化が予測される状況の変化があったときはすぐにケアマネに報告して担当者会議の開催を依頼した。担当者会議を毎月開いているケースでは、他の事業所との思いを共有できたことで家族の心のケアにもつながり信頼関係が深まった。

2. 専門性の開発

- ・研修会情報の提供と共有・研修会へ継続的に参加する（他のスタッフに研修報告を行う）
摂食嚥下障害看護認定看護師による研修を開催
ミーティング時に研修報告を実施
認知症ケア研修を実施

3. 活気ある職場づくりを推進する

- ・サイボウズを活用し情報の共有
おおむね全職員がサイボウズ閲覧可能となった。発信や書き込みは一部の職員のみだった。
- ・朝のミーティング実施継続
毎朝送迎終了後に送迎時の情報（排泄、睡眠、ご家族の様子等）の共有が徹底できた。自宅での変化の様子を知ることでパターン化することなく臨機応変に対応できた。排泄や入浴が重なり全員が参加できない。
- ・他の事業所と問題点の共有、解決の場を設ける
G土橋の研修報告に参加。デイ利用者のグループホーム入居に伴い医療処置をサポートした。医療サポートについてフィードバックする時間が少なく中途半端な形になった。

4. 経営・運営に参画する

居宅介護支援事業所を営業訪問し事業所のチラシを配布した。急な利用者数減少に対応が間に合わず売り上げが下がった。

5. 地域包括ケアの拠点となる事業所作り

土橋のおうち主催のもちもちカフェ、cotocoto@、よぼうの秘密ランチ会、手話サロンに加え、地域住民主催のヨガ、酒の会、子ども食堂が開催された。デイ利用者が提供するスマートブックカフェはケアの最終目的である社会参加の場となった。創立17周年もちもちの木まつりでは賛助会員と地域住民の交流会も開催できた。

開催時の準備やルールなどが確定していないグループもあった。

ミーティング 第2・4水曜日に開催（計24回）

研 修

実施日	研修内容
7/12	高齢者のスキンケア おむつのいろは
7/25	口腔ケアのポイント
10/25	嚥下について 認定看護師講義
12/1~2	ユマニチュード 入門コース ※事業所外

(2) 古田のおうち

◎グループホーム古田のおうち（定員 9 名）

【平成 30 年度ケア理念】

「ありのままのあなたを受け止めて、そっと寄り添う」

【平成 30 年度事業所目標】

「みんなが心地よい居場所を作る」

【活動報告】

平成 30 年度活動計画

- ①行動前の根拠を明確に照らす
- ②安全衛生環境の推進
- ③経営の安定

平成 30 年度活動報告

- ①経過記録へ SOAP で記入し、「こういう主観的・客観的事実の下で判断し、このケアを提供した」という記録内容を目指した。記録は未だ不十分だが、ケアを振り返ると、この組み立てにもとづく根拠のあるケアを行っている。変則勤務の施設であり、このケア記録が重要な引き継ぎの材料となる。学びと実践が進行中。達成率 60%。
- ②業務前後の整理整頓を常とし、効率、経費削減へつなげた。
職員の病欠や早退が目立ったものの、その間、他の職員による多大な協力があった。
設備の課題としてトイレの便器が高い、キッチンのシンク台が低い、浴槽の高さの改良等が挙げられた。書類の整理、保管場所は未着手。達成率 70%。
- ③この 1 年で入居者 2 名の退所、3 名の看取り、2 名の入所があった。
要介護 5 が 5 名、要介護 4 が 2 名と介護重度が高く、食事排泄等の基本的な生活のケアが続いた。ほぼ同時期に状態が変わって看取りもあり、3～4 月で 2 部屋の空室がある。

入居状況（H31.3.31現在）

介護度	人 数	
	H30. 9	H31. 4
要支援2		
要介護1	1	2
要介護2		1
要介護3	1	
要介護4	2	2
要介護5	5	2

月	入居	空室	入院
4	9	0	
5	9	0	
6	9	0	
7	9	0	
8	9	0	
9	9	0	
10	9	0	
11	9	0	
12	9	0	
1	9	0	
2	8	0	1
3	6	1	2

行事、外出

9/28 御茶会

11/24 家族会 昼食をはさみ スライドで生活の様子を紹介、家族ごとの自己紹介
入居者8名 家族9名（うち子供1名）職員9名

定例会議 毎月第1金曜日（計12回開催）

運営推進会議

4/19 5/27 8/2 10/24 12/19 2/20

地域行事への参加

9/2 ふれあい広場（古田公民館）

2/20 古田学区防災説明会

研 修

事業所外研修

実施日	研修内容
6/21	認知症を持つ方への排泄ケア
8/3	認知症の理解とカフェの取り組み
9/19	認知症BPSDの理解と対応
12/1～2	ユマニチュード 入門コース
1/28	広島市高齢者虐待防止研修会
2/7	施設サービス計画研修会

事業所内研修

実施日	研修内容
6/20 10/11	防火訓練
6/ 1 2/ 8	高齢者虐待、身体拘束防止学習会
7/ 6	認知症を持つ方への排泄ケア 伝達学習会
7/20	根拠のあるケアを目指して、入居者 2 名の実践と交流分析を取り入れて
9/21	認知症の理解 伝達学習会
10/19	認知症BPSDの理解と対応 伝達学習会

◎デイサービス古田のおうち（定員 13 名）

【平成 30 年度事業所目標】

1. 私たち

- ①業務の見直しを行い改善し、専門職としての法人理念に沿ったケアを実践する
- ②働く環境の整備・清潔に心がけ気持ちのよい職場にする
- ③年間研修計画の中で「機能訓練」に関わる知識を習得し実践していく

2. 経営

- ①利用実績 10 名／日
- ②機能訓練加算 5 名算定

③節水・節電・消耗品の節約に心がける

3. 地域

①運営推進会議に管理者以外も参加し活動状況の報告を行う

【活動報告】

1. 私たち

①業務の見直しを行い改善し、専門職としての法人理念に沿ったケアを実践する

- ・入浴介助・食事介助・排泄介助は介護職、看護職でケアを統一し誰でもどの利用者に対しても適切なケアが行えるように見直した。それによって職員が情報の共有・ケアの統一ができ、利用者の状態も改善した。
- ・テーブル、席の配置を個別に配置し、個別ケアがしやすく利用者が落ち着いて過ごすことができるようになった。それによって個別ケアの強化が課題となった。
- ・ホワイトボードを利用し1日の職員の役割を見える化。それによって職員1人1人の役割が明確になり計画的に業務に付くことができた。また、職員同士の連携ができた。今後も記載内容、様式の改善に努める。
- ・今年度より文化活動支援員配置
文化活動支援員からの企画提案でかつて戦争証言活動を行われていた利用者様の『戦争証言の会』開催（2/20）。外部より6名の参加があった。

②働く環境の整備・清潔に心がけ気持ちのよい職場にする

- ・朝に掃除の時間を設け夕方は簡単な整理整頓のみにした。時間内で職員が帰宅でき負担が減った。朝の掃除時間を充実させ、フロアの拭き掃除まで毎日行うことで気持ちよく1日のスタートを切ることができた。
- ・職員の休憩時間を交代制にし規定の時間の休憩を確保した。誰もがきちんと休憩時間をとることで気持ちに余裕ができ落ち着いて業務に就くことができた。課題としては落ち着いて休める場所、ロッカーがないこと。整理整頓ができていないこと。
- ・入浴介助、トイレ介助中のヘルプ要請のための呼び出しチャイムの設置完了。

③年間研修計画の中で「機能訓練」に関わる知識を習得し実践していく

- ・事業所内研修では外部から専門職の講師を招き「地域密着型通所介護での機能訓練の意味」というテーマで研修を実施した。
- ・デイサービス土橋のおうちの看護師がフットケア・足浴の研修を実施した。
- ・研修により職員全員が足浴、フットケアを実施できるようになった。

2. 経営

平均利用実績 9. 3人／1日
機能訓練加算 5名

3. 地域

運営推進会議の時間帯、人員配置の問題等で管理者以外の職員の参加なし

ミーティング 毎月1回開催（計12回）

運営推進会議 8/15・2/20

研修参加（事業所外）

実施日	研修名
11/26	若年性認知症研修 東区総合福祉センター
12/1～2	ユマニチュード研修
1/29	若年性認知症ワールドカフェ
2/23	西区 カフェから繋がる輪
3/12	若年性認知症研修会

3. 地域コミュニティ支援事業

(1) 土橋のおうち

◎よぼうの秘密ランチ会（デイサービス土橋のおうち）

毎月第4火曜日 11:30～14:00

計11回開催 参加者数：延べ157名

介護予防の情報提供や介護家族の気軽な相談窓口として開催。土橋町町内会を通じて町内の高齢者にも声をかけている。50代～60代の家族介護者世代もリピーターで定着し、月1回の情報交換を楽しみにされている。

	開催日	メニュー	テーマ	参加者
1	平成29年4月24日	『春野菜と豚肉の炒め物』		17名
2	平成29年5月22日	『魚フライのトマトソース』		9名

3	平成 29 年 6 月 26 日	『豚肉の三色ソテー』		14 名
4	平成 29 年 7 月 24 日	『ゴーヤーチャンプルー』		16 名
5	平成 29 年 9 月 25 日	『ししゃもの南蛮漬け』		11 名
6	平成 29 年 10 月 23 日	『厚揚げと刻み昆布の炒め煮』		9 名
7	平成 29 年 11 月 27 日	『鶏ムネ肉の塩麴焼き』		20 名
8	平成 29 年 12 月 25 日	『豚肉と野菜の免疫力 up 炒め』		20 名
9	平成 30 年 1 月 22 日	『あんかけ焼きそば』		14 名
10	平成 30 年 2 月 26 日	『車麩のフライ』		12 名
11	平成 30 年 3 月 26 日	『鮭のソテー』		15 名
				参加者数延べ 157 名

◎もちもちカフェ（認知症カフェ）

毎月第 4 木曜日 13:00～16:00

参加者 延べ 304 人（1 回あたり平均 21.7 人）

認知症の人とその家族 延べ 62 人

中区認知症地域推進支援員、国泰寺地域包括支援センター、土橋町町内会、土橋町民生委員、本川女性会、たぬき倶楽部等と連携し協力を得て開催した。当事者とその関係者が安心して集う為に事前の情報共有に心掛け参加者からの相談を他の地域の専門職につないだ。

認知症の方の可能性を理解していくために、当事者の声を聴くフォーラムを開催し啓蒙を図った。また、地域の在宅介護家族が参加されたことをきっかけに退院後の受け入れをデイサービスで行った。軽度の認知症の方が毎回参加され思いを話されている。

若年性認知症の方の家族が毎回参加され日頃の暮らしの報告をすることで心の安定につながっている。

◎cotocoto@（ことこと@）

毎週月・木曜日 13:00～15:00

計 52 回 参加者 延べ 52 人

利用者・地域住民が参加し、古い着物の生地を活用して手縫いする手芸の技術で個々の作品や商品作りを行っていった。利用者が体調不良で参加できていないが、傍で作品作りを見て会話が弾む場面もあった。

◎手話サロン

毎月第 3 土曜日 15:00～16:00

計 12 回 参加者 延べ 70 人

聾学校を経て作家活動をしている方に講師を依頼し、もう一つの言語や表現としての手話を楽しむ

みながら広めることができた。手話の入門としての学びを通して、当事者と健聴者のコミュニティを形成する基盤ができた。

◎住民参加型生活支援サービス「ふれ愛 たすけ愛 プロジェクトC」

今年度は「ケアニン」の上映を実施した。支援を本当に必要とし、「どうすればよいか」「どこに相談すれば」と困っている方々に、この会の存在を広報するために何から始めたらよいか、検討は十分できなかった。

◎本川浜えびす神社のお祭りと亥の子まつり 土橋町内会と協働

17周年もちもちの木まつり 11月10日

カフェ&フリーマーケット・多世代コンサート 42名

交流会参加者 22名

町内外の多世代のつながりを深めるための発見ができる機会となり多世代交流の機会を提供した。

土橋のおうち来所者 64名 亥の子参加者 20名（町内祭り参加者含まない）

◎夕焼けぼっぼ食堂

地域で活動していた子ども食堂の活動場所をもちもちの木土橋のおうちに3月より移転。

毎週木曜日に16時半～18時半開催となった。3月は4回開催 利用者延べ104名

有機野菜などの食材を使用しワンプレートで提供している。

◎坂町平成ヶ浜 仮設住宅集会所「のびのびカフェ」

計4回 参加者 延べ53名

H30.7.7に発生した西日本豪雨災害に際して支援金・物資を募り、坂町平成ヶ浜仮設住宅集会所において「のびのびカフェ」を設置、健康相談・マッサージ等で支援した。

※巻末資料「西日本豪雨災害支援活動報告」参照

(2) 古田のおうち

◎多世代寺子屋ネットワーク

少子高齢化、人口減少、世代ごとの孤立化、認知症人口の増加など、生活を取りまく難題が渦巻くなか、住民活動によるネットワーク、フットワークを生かし、多様な世代を紡ぐ地域の居場所づくりを充実させるとともに、コミュニティへの住民参加を加速させる。住民自らが地域資源を活用し、仲間と支え合い、共感できるコミュニティ形成を目指した。

様々な団体が巣立ち主体的に活動しているため、区切りの年として大卒業式を開催した。

◎地域食堂（デイサービス古田のおうち）

延べ利用者数 395 人

毎回、地域の方が集い和やかに会話を楽しみながら食事をされている。

◎もちもちオレンジカフェ

平成 30 年 4 月～平成 31 年 3 月 12 回 延べ利用者数 134 人

毎月第 4 火曜日 14：00～16：00 開催

地域のご夫妻が数組、定期的に来られるようになり、繋がりができる。

お茶を飲みながら当事者・家族が気軽に相談や情報収集ができた。

9/6 西区認知症カフェ店長連絡会

2/23 「カフェでつながる地域の輪」にてカフェの紹介、他カフェのメンバーたちと交流。

◎古田ママの会

平成 30 年 4 月～平成 31 年 3 月 11 回(8 月休み) 利用のべ数、ママ 72 名(子ども 62 名)

対象：未就園児とママ&プレママ

日時：毎月第 2 金曜日 10 時 30 分～11 時 45 分

平成 23 年 1 月から始まり、親子で楽しめる企画や、子育てに役立つ学びの講座も企画している。

親子アロマ虫よけスプレー作り・親子のコミュニケーション講座・水遊び&すいか割り・読み聞かせ・おぜんざいクッキング等実施した。

内容によっては、古田のデイサービス利用者、グループホームの入居者、地域の方も一緒に参加していただき、多世代での交流も行った。

古田のおうち地域交流広場 活動団体一覧(平成 31 年 3 月 31 日現在)

内容	開催日	開催時間	回数	参加延べ人数
古田ママの会	第2金曜日	11:00～13:00	12回	172人
地域食堂	毎週月水木曜日	11:00～13:00	160回	395人
笑いヨガ タッピングタッチ	第4火曜日	11:00～12:00	12回	48人
もちもちオレンジカフェ	第4火曜日	14:00～16:00	12回	134人
				参加延べ人数 計749人

自主活動グループ

内容	開催日	開催時間	回数	参加延べ人数
歌のサロン 音連れ	第1・3金曜日	13:00～15:00	21回	406人
ふれあい交流会「いろり」	第2火曜日	11:00～14:00	12回	262人

子どものアトリエ	第2・4金曜日	15:00～18:00	17回	79人
カフェ 万葉の和	第3土曜日	11:00～12:00	12回	236人
古江新町町内会	第1土曜日	10:00～12:00	12回	141人
参加延べ人数 計1,124人				

(3) 庚午のおうち

◎多世代シェアハウス 庚午のおうち

入居者 計5名

(60歳代：1名、50歳代：1名、30歳代：2名、20歳代：1名)

空室1 (平成31年3月現在)

毎月1回「快適シェア会議」を開催しルールの確認をし合う。

シェア会議の時に食事係りと汚れが溜まっている場所と整理整頓の役割を分担して実施することになった。ルールブックの更新は無かった。

◎もちもちの木 オープンスペース 「もちもちの子こうご」

平成30年4月～平成31年3月 42回 利用のべ数 親子533組(子ども597名)

対象：未就園児とパパママ&プレママ

日時：毎週月曜日10時～14時(祝日休み&臨時休み有)

平成28年から実施しており、現在、10組以上の親子でにぎわう日も多い。7月には七夕会、夏には中庭で水遊び、そうめん流し、夏野菜の収穫。9月には敬老会、10月にはハロウィン、11月には地域の方と一緒に大掃除、12月はお餅つき、2月下旬にはひな祭りイベントも開催した。

◎庚午カフェ

第1・3火曜日 会費700円。11時～14時に開かれ昼食を食べながら集うカフェで、50代～70代のボランティア10人で手作りの昼食を提供している。

30年度は開催23回、参加延べ人数、983人で毎回40人位の参加がある。ラジオ体操から始まり、落語、漫談法話、オカリナ演奏、手品、健康教室などを企画した。

地域の方の要望を聞かせてもらい6年経過し、住民主体のコミュニティの場として定着してきている。

◎健康マーじゃん

平成25年5月に「飲まない、吸わない、賭けない」をモットーに発足し6年目に入る。

第1, 3, 5の水曜日13時～16時 会費300円（フリードリンク付き）。

当初は4人で始まったが、現在は毎回45人の位の参加があり11テーブルをセッティングしている。30年度の参加延べ人数は1,047人で、半数以上は男性が占めている。

毎週楽しみたいとの希望があり、9月より「健康マー جانⅡ」が立ち上がった。人数が多くなりルールが微妙に違うため「庚午のおうちルール」を作成し楽しまれている。

庚午のおうち 地域交流広場利用集計

団体名・活動名	活動回数	参加延べ人数
庚午カフェ	23	983人
健康マー جان	27	1,047人
健康マー ジャン Ⅱ	13	217人
多世代寺子屋（よるのちょうない会）	5	64人
オレンジャーひろば	14	325人
その他	7	93人
もちもちの子 こうご ※法人事業	42	1,287人
合 計	131	4,016人

◎たぬき倶楽部

私たちが日々暮らしているなかで、自分自身・家族・知人が、ある日認知症と診断される可能性は誰にでもある。そのことで絶望し、生きる意欲までも失ってしまう本人や家族もいる。そして認知症の人だけでなく、他の病気や障害、生活のしづらさを抱えながら生きている人も少なくない。

このような中、お互いがお互いを尊重し、時に力を合わせ、時に助け合い、皆それぞれが人としての権利と義務をもち、納得のいく「自分の人生」を全うしたいと願いを持った人達が集い、語らい泣き、笑い、刺激し合い、お互いを理解し合うため、自分にできことは何か考えるきっかけを作るために設立。今年度はソフトボール部もスタートし、地域の協力のもと古田小学校グラウンドを借りて練習を行っている。

たぬき倶楽部の活動

☆5月26日 もちもちの木 総会&交流会にて活動報告

☆6月5日 講演会 函館

☆6月11日 ボウリング 広電ボウル

☆7月19日 認知症サポーター養成講座（もちもちカフェと協働）土橋のおうち

☆9月1日 たぬき倶楽部 1周年記念イベント ゲスト 丹野智文さん

- ☆11月10日 もちもちの木まつり 地域コミュニティ活動グループ交流会 土橋のおうち
- ☆12月17日 餅つき大会（もちもちの子こうごと協働）庚午のおうち
- ☆1月14日 寒中水泳 平和公園原爆ドーム前
- ☆2月10日 認知症サポーター養成講座 庚午のおうち（よるのちょうない会と協働）
- ☆ソフトボール練習&交流会
 - 毎月第3水曜日、雨天の場合 第4水曜日
 - 19時～21時 庚午中学校グラウンド・古田小学校グラウンド 計12回開催
 - 練習する人・応援する人・見学の人などグラウンドに入る方は全員 参加費200円（保険代込）

4. 総務

【求人活動】

労働者不足が一層深刻化する中、特定非営利活動法人らしく「全員に情報共有し、全員で考え、全員で決める」職場風土づくりを心掛け、人材流出防止と人材確保に努めた。ハローワークを通じた採用活動に陰りが見え、職員や地域の間人関係を通じた人材紹介が目立つようになった。

平成29年に法人独自のアイデアで新設した職種「文化活動支援員」については、デイサービス土橋のおうちに勤務している2名（美術系クリエイター）に続き、デイサービス古田のおうちでも1名（劇団員）採用した。このほか介護職としてデイサービス土橋のおうちに採用した劇団員1名を含めて、介護現場における文化活動支援の取り組みの基盤を作ることができた。

法人全体の離職率は12.5%と昨年に続いて大幅に減少、全業種の全国平均14.9%および医療福祉業界の全国平均14.5%（平成29年、厚生労働省資料）を下回った。

- ・平成30年6月25日 ハローワーク広島東「福祉の職場説明会・面接会」参加
グループホーム土橋のおうち 1名採用
- ・平成30年9月26日 ハローワーク広島・広島県シルバー人材センター連合会
「技能講習終了者 就職面接会」参加
職場見学1名 面接・採用に至らず
- ・平成30年11月5日 ハローワーク広島東「福祉の職場説明会・面接会」参加
職場ボランティア体験1名 採用に至らず
- ・平成30年11月20日 ハローワーク広島 合同面接会「介護就職デイ」参加
職場見学1名 グループホーム古田のおうち 1名採用
- ・平成31年2月20日 ハローワーク広島「介護・看護・保育総合就職フェア」参加
職場見学4名 面接・採用に至らず

平成30年度 採用実績

採用面接実施	採用	年度内の退職者
23名 (職場見学を除く)	11名 (うち派遣会社の人材紹介2名)	2名 (新規採用者のうち)

離職率推移

年度	年度当初の在職者数	年間退職者数	離職率
平成27年度	50名	20名	40.0%
平成28年度	43名	17名	39.5%
平成29年度	43名	11名	25.6%
平成30年度	40名	5名	12.5%

【安全衛生】

◎一般社団法人日本産業カウンセラー協会 ルーム利用契約

福利厚生の一環として一般社団法人日本産業カウンセラー協会とカウンセリングルーム利用契約を結び、職員が抱える問題や悩みを外部専門家に安心して相談できる体制を作った。

◎産業医の事業場訪問・意見聴取

第1回 平成30年7月24日 古田のおうち

特定業務従事者（夜勤者）健診結果の意見聴取12名、職場環境チェック

産業医：松山須美子 先生

第2回 平成31年2月6日 古田のおうち

定期健診結果の意見聴取26名、職場環境チェック

産業医：佐久間和代 先生

【働き方改革】

◎就業規則改正

平成31年3月1日付で就業規則を改正した。おもな改正点は次の通り。

・70歳定年制の導入

定年を5歳引き上げ70歳とした。正職員については65歳をもって短時間正職員に切り替え、定年後の人生を再設計できるよう配慮した。また70歳から75歳までは嘱託職員として継続雇用可能とした。

・ハラスメントの禁止

パワーハラスメント、セクシャルハラスメントなどの禁止を就業規則に明記、全職員にハラスメント防止研修を実施した。

◎平成 30 年度 広島県「働き方改革の外部視点アドバイス事業」支援企業認定

中小企業の働き方改革に向けて従業員の意識を調査分析し、社会保険労務士が今後の取り組みをアドバイスする当該事業の支援企業に認定された。昨年度は全職員アンケート、各事業所での個別ヒアリング、データ分析まで完了した。

◎仕事と家庭の両立支援

次世代育成支援の一環として、土橋のおうちを「こども 110 番の店」に登録した。

5. スタッフの参加・派遣、見学、研修等

(1) スタッフの参加

◎土橋・本川地域の活動への参加

法人として土橋町町内会役員（会計）を担当し、町内会行事に積極的に参加した。

実施日	内 容
4/28	土橋町町内会総会
7/6、9/28、10/27、 2/20、10/5、3/29	土橋町町内会役員会、 土橋町町内会組長会（10/5、3/29）
5/27	土橋町町内会レクリエーション
8/5	原爆死没者慰霊盆踊り大会
11/10、11/11	西本川 浜恵比須神社 秋季例大祭 亥の子祭り（11/11）
11/23	本川地区女性連合会 70 周年記念 女性の集い
1/27	本川地区女性連合会新年親睦会参加

◎古田地域の活動への参加

実施日	内 容
4/14、5/12、6/9、8/8、9/8	古田学区社協常任委員会
5/13	古田学区町民運動会

7/26、11/8	古田圏域「医療と介護の連携会議」
9/2	古田地区ふれあいひろば
9/6	西区認知症カフェ店長会議
10/27	古田学区公衛協清掃
11/16	古田ふれあいサロン交流会

(2) 講師派遣

◎認知症サポーター養成講座 講師 竹中庸子

実施日	内 容
7/19	たぬき倶楽部認知症サポーター養成講座
10/5	東西サロン認知症サポーター養成講座
10/26	もみじ銀行舟入支店認知症サポーター養成講座
10/30	認知症アドバイザーと地域包括支援センターとの情報交換会 講師
11/29	地域で見守るための「認知症サポーター養成講座」
12/19	中国四国厚生局認知症サポーター養成講座
2/3	認知症サポーターステップアップ講座指導者養成研修講師
2/9	たぬき倶楽部認知症サポーター養成講座
2/24	認知症アドバイザーフォローアップ講座講師
9/2、11/11、 12/15	広島市認知症サポーターステップアップ講座 ファシリテーター
	第14回認知症ケア専門士認定試験第2次試験審査員

◎その他の講座・シンポジウム等 講師 竹中庸子

実施日	内 容
6/5	有隣会 平成30年度第1回まちづくりセミナー
10/15	介護労働安定センター「災害における小規模多機能居宅介護の役割」
11/1	広島県シルバーサービス振興会セミナー2018「介護の未来が地域をつくる」
1/26	げんき塾講演会「認知症になっても人生は終わらない」
2/4	東区地域交流センター 介護施設選びのポイント
3/10	気づきを築くユニットケア全国実践研究フォーラム

講師 工藤亜紀江

実施日	内 容
12/1	青少年育成県民会議「青少年育成カレッジ」「ココロとカラダの栄養バランス」
2/25	古田公民館 楽しく学ぶ親子の防災教室 防災教室「ひろしま J プログラム」

(3) 見学・ボランティア等受入

実施日	内 容
8/8	ぎおん牛田病院
11/28、12/5	認知症サポーターステップアップ講座 見学2名 同 見学1名
3/1	厚生労働省中国四国厚生局 視察

一般ボランティアの受け入れ	デイサービス古田のおうち	年間	延11名
	グループホーム古田のおうち	年間	延0名
	デイサービス土橋のおうち	年間	延133名
	グループホーム土橋のおうち	年間	延3名

(4) 研修の受講

◎平成30年度キャリアパス研修（内部研修・全職員必修）

実施月	内 容
4月	法人テキスト
5月	第17期通常総会
6月	ハラスメント研修(外部講師)
7月	事業所研修①
8月	認知症ケア研修 事例発表: G 土橋、D 古田
9月	事業所研修②
10月	事業所研修③
11月	社会人基本マナー研修
1月	認知症ケア研修 事例発表: G 古田、D 土橋
2月	事業所研修④

◎外部研修受講（全体）

実施日	内 容
8月28日	平成30年度自立支援多職種連携推進研修
10月16日	広島市認知症介護基礎研修
2月3日	広島市認知症サポーターステップアップ講座指導者養成研修
3月	平成30年度広島市介護サービス事業者集団指導研修

6. 調査・研究協力

◎厚生労働省「毎月勤労統計調査」

デイサービス古田のおうちについて統計調査に協力した。（平成30年7月より1年間）

◎第14回認知症ケア専門士認定試験 第2次試験審査員

審査員 竹中庸子

7. 想いと活動の紹介

◎情報発信

- ・法人ニュースレター「もちもちの木 smile」
平成30年夏号 2,000部発行 平成31年冬号 2,500部発行
- ・法人ホームページ <http://mochi2.wpblog.jp/>
- ・庚午のおうちホームページ <http://kougomc2.wpblog.jp/>
- ・Facebook ページ「もちもちの木」、「デイサービス土橋のおうち」、「たぬき倶楽部」

◎創立17周年記念「もちもちの木まつり」 平成30年11月10日

土橋町の西本川「浜恵比須神社」のお祭りとお亥の子祭りに合わせて、もちもちの木まつりと交流会を開催した。

内 容 サックス&ピアノコンサート、鯛めし販売、古物市
賛助会員、土橋町町内会、その他有志の交流会

◎マスコミ取材

- ・カレントひろしま 「広島県内の取り組み」 平成30年4月号掲載
- ・公明新聞中国版 「多世代がつながれる居場所を」 平成30年6月24日掲載
- ・CLC情報誌 Mission 「介護事業とコミュニティ支援の融合」 平成30年7月号掲載
- ・中国新聞 「大長寿時代の心配事」 平成30年7月21日掲載
- ・朝日新聞 「認知症とともに 本人の思い [10]」 平成31年1月28日掲載
- ・中国新聞 「土橋の歴史でつながろう」 平成31年2月14日掲載
- ・広島県国民健康保険団体連合会 月間誌『ひろしまの国保』
特集「ひろしま健幸力」取材 令和元年5月号掲載分

8. 寄付・募金活動（ファンドレイジング）

平成29年度 共同募金への参加（平成30年度事業分）

「多世代コミュニティで子育て世代支援」

住民自らが地域資源を活用し、仲間と支え合い、子育て世代支援活動を通して多世代で共感できるコミュニティ形成を目指した。

事業内容

- ・もちもちの木 オープンスペース「もちもちの子こうご」
- ・古田ママの会（デイサービス古田のおうち）
- ・多世代寺子屋ネットワーク

事業総予算額 468,000円 共同募金助成申請額351,000円

※巻末資料参照